

# SDGs未来都市等進捗評価シート

2019年度選定

鹿児島県徳之島町

2021年8月

**SDGs未来都市計画名**

自治体SDGsモデル事業  
又は特に注力する先導的取組

徳之島町 SDGs 未来都市計画  
あこがれの連鎖と幸せな暮らし創造事業

—

## 1. 全体計画（2030年のあるべき姿）

## (1) 計画タイトル

徳之島町 SDGs 未来都市計画 あこがれの連鎖と幸せな暮らし創造事業

## (2) 2030年のあるべき姿

世界自然遺産候補地である貴重な自然環境とそれらと共存してきた人の暮らし・文化を島に暮らす私たち自身が再評価し、人と自然環境との共存という現代世界の抱える課題への挑戦事例を提供できる地域社会が実現している。

また、大学進学等で一度は島外転出する若い世代が「島でやってみたい仕事があるので、大学を卒業したら島に帰る」、「都会で修業したあとは島に戻り、起業する」、「徳之島は私のリゾートオフィスであり、第二のふるさとでもある」等の声が多く聞かれる「あこがれの連鎖」が絶えないチャレンジの島となっている。

## (3) 2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール

経済	社会	環境
 8 働きがいも経済成長も	 9 産業と技術革新の基盤をつくろう	 4 質の高い教育をみんなに
	 11 住み続けられるまちづくりを	 12 つくる責任 つかう責任
		 14 海の豊かさを保たろう

## (4) 2030年のあるべき姿の実現に向けた取組の達成状況

No	指標名 ※口内はゴール・ターゲット番号	当初値	2021年（現状値）		2030年（目標値）		達成度（%）
1	島内在住のテレワーカー数【8.2, 8.3】	2019年 0人	2021年 5人	2030年 30人	17%		
2	エコビレッジの商品開発数【9.4, 9.b】	2019年 - 件	2021年 0件	2030年 21件	0%		
3	町主催での学校外におけるプログラミング教室数【4.3, 4.4, 】	2019年 1教室	2021年 1教室	2030年 3教室	33%		
4	シマ（集落）の高齢者の自生植物栽培への参画者割合【11.7】	2019年 0%	2021年 9.4%	2030年 90%	10%		
5	われんきゃ（子ども）エコツアーガイド育成プログラム実施数【12.8】	2019年 3小学校区	2021年 3小学校区	2030年 8小学校区	38%		
6	赤土等の流失防止ほ場等数【14.1, 14.2】	2019年 0箇所	2021年 1箇所	2030年 12箇所	8%		

## (5) 「2030年のあるべき姿の実現に向けた取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

集落において集落支援員の存在は大きく、住民とともに合意形成を行うための話し合いの場を設けているが、シマデザイン（「おかげさまサイクル」でつなぐエコビレッジコミュニティの再興で集落が収入等を得て自立する仕組み）への住民の理解や協力が不十分のため、事業を軌道に乗せていくにはまだまだ時間を要する模様である。新型コロナウイルス感染症の影響により対面によるやりずらさや目標値に対して現状値が伸び悩んでいることを考慮し、第2期SDGs未来都市計画策定に向け事業内容の精査やKPIの一部変更等も検討していくことを視野に入れている。

「エコビレッジの商品開発数」や「赤土等の流失防止ほ場等数」については、集落支援員により準備を進めているところであるが協力企業等の確保に時間を要する。一部協力企業とポタニカルティー試作品開発まで行っている。その他、集落支援員の所有しているコーヒー農園において赤土等流出防止ほ場を設置している。これらもこれらの取組に対して協力していただける企業や住民等を確保していくことが必要である。

## 1. 全体計画（自治体SDGsの推進に資する取組）：計画期間2019年～2021年

## (1) 自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況

No	取組名	指標名	当初値	2018年実績	2019年実績	2020年実績	2021年目標値	達成度(%)
1	クリエイティブファクトリー構築事業	島内在住のテレワーカー数	2018年 0人		2019年 5人	2020年 5人	2021年 10人	50%
2	「おかげさまサイクル」でつなぐエコビレッジコミュニティの再興	シマ（集落）の高齢者の自生植物栽培への参画者割合	2018年 0%		2019年 9.4%	2020年 9.4%	2021年 50%	19%
3	「おかげさまサイクル」でつなぐエコビレッジコミュニティの再興	赤土等の流失防止ほ場等数	2018年 0箇所		2019年 1箇所	2020年 1箇所	2021年 3箇所	33%

## (2) 自律的好循環の形成へ向けた制度の構築等

本町の取組に賛同していただいている武蔵野大学等と連携し大学生の視点で地域課題を考え、それを解決するためのエコツーリズムの提案等をいただいている。SDGs未来都市に選定されていることで注目されるようになり、ソフトバンク（株）と連携協定を締結したことにより離島における教育の地域課題解決実施していく予定である。その他の企業からも連携に向けた話をいただく機会が増えている。

## (3) 「自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

【再掲】集落において集落支援員の存在は大きく、住民とともに合意形成を行うための話し合いの場を設けているが、シマデザイン（「おかげさまサイクル」でつなぐエコビレッジコミュニティの再興で集落が収入等を得て自立する仕組み）への住民の理解や協力が不十分なため、事業を軌道に乗せていくにはまだまだ時間を要する模様である。新型コロナウイルス感染症の影響により対面によるやりずらさや目標値に対して現状値が伸び悩んでいることを考慮し、第2期SDGs未来都市計画策定に向け事業内容の精査やKPIの一部変更等も検討していくことを視野に入れている。

「エコビレッジの商品開発数」や「赤土等の流失防止ほ場等数」については、集落支援員により準備を進めているところであるが協力企業等の確保に時間を要する。一部協力企業とポタニカルティー試作品開発まで行っている。その他、集落支援員の所有しているコーヒー農園において赤土等流出防止ほ場を設置している。これからもこれらの取組に対して協力していただける企業や住民等を確保していくことが必要である。

## (4) 有識者からの取組に対する評価

- ・離島という立地条件を踏まえて、SDGsに係る各種の具体的取組を展開しており、評価できる。
- ・地域経済活性化の視点も示されているが、金融機関との連携を含め、一層の活性化が望まれる。
- ・離島の特性を活かした構想であるが、都市部企業との共創にはオープンイノベーションの場と有能なコーディネート人材が必要と料する。